まえがき

「基礎」というのは「簡単」という意味ではありません。「何かをしたり考えたりするもとになることがら」(三省堂国語辞典) という定義に基づけば，本書は**「英語学習の土台となる部分を扱った本」**であると言うことができます。

学習の初期段階では，単語を覚えて文章をたくさん読めば，ある程度のレベルまでは到達できるでしょう。しかし，そのような形でなんとなく単語の意味をつなぎ合わせるだけでは，難関大学で出題されるような，あるいは大学入学後にみなさんが出会うような，高度な英文を正確に読み解くことはできません。**高いところを目指すのであれば，まずは「基礎」となる部分を徹底的に習得する必要があります。**

英文を正確に読み解く上で**「基礎」**となるのは，**「品詞」「文型」「句と節」**などの分野です。１語１語の単語の役割 (品詞) をつかみ，その語がどのように配置され (文型)，カタマリをつくっている (句と節) かを正確に把握していれば，**どんなに難しい文章でも確実に読み解けるようになります。**

本書では，難しい英文を読み解く上で必須となる「品詞」「文型」「句と節」を徹底的に扱っています。これらの項目に対する意識が足りないせいで英語の成績に伸び悩む生徒を，これまで何度も目にしてきました。**今まで何となく見過ごされてきた (あるいは意図的に目を逸らされてきた)「基礎」となる部分をしっかりと習得することで大きな飛躍を可能にすること**が，本書の最大の目的です。これらの「基礎」を丁寧にわかりやすく説明し，重要事項は何度も出てくるように配慮しましたので，本書を丁寧に取り組めば，難しい英文を読み解く上での盤石な基礎を築くことができるでしょう。

本書の特徴は以下の通りです。

［1］「品詞」「文型」「句と節」をわかりやすく解説

英語上級者になるために不可欠な，しかし重点的に扱われることの少なかったこれらの分野に内容を特化させ，しっかりと説明を加えています。前提知識を必要としないように配慮していますので，「品詞」「文型」「句と節」と聞いてピンとこない人も，なんとなくしかわからない人も，問題なく取り組めるようになっています。

［2］ 豊富な演習問題

英語の知識は，理解し覚えるだけではなく，「自分でその知識を使いこなせる」という状態にまで高めなければ，役立つものにはなりません。本書では「理解した」で終わることのないよう，読解に役立つ様々な種類の演習問題を取り入れています。中には難しいものも含まれていますが，一つ一つ確実にこなして解説を熟読すれば，知識が身体に内在化するのを実感することができるでしょう。

［3］ 読んで楽しい素材

「品詞」「文型」「句と節」は「よくわからない……」「退屈だ……」という感想を持たれがちなのも事実です。本書では，これらの事項を正面からしっかりとわかりやすく説明するだけでなく，『桃太郎』『かぐや姫』『イソップ物語』など，耳馴染みのある，あるいは実際に読んだことがなくてもなんとなく楽しめるような素材を各所に用いて，楽しく学習が進められるよう配慮をしました。

［4］　学習法コラム

本書はこれから本格的に英語を学習しようとしている人を対象にしていますので，今後の英語学習に役立つコラムを多数掲載しました。英語学習は正しい方向に向かって十分量の努力をすれば，必ず成績が向上します。本書に掲載したコラムは，みなさんが正しい方向に向かう手助けになるはずです。

本当の意味での「基礎」が固まっていないまま走り出してしまった学習者には，本書がブレイクスルーをもたらすはずです。

「頑張っているはずなのに成績が伸びない」と悩んでいる生徒が一人でも多く救われることを，強く願っています。

久保田 智大

目 次

まえがき iii
本書の使い方 viii

第1章 品詞

1 品詞・文型はなぜ重要なのか 2
2 品詞とは 4
3 名詞とその役割 5
4 動詞とその役割 7
5 形容詞とその役割 8
6 副詞とその役割 15
7 〈前置詞＋名詞〉とその役割 22

第2章 文型

1 文型とは 30
2 第１文型（SV） 31
3 第３文型（SVO） 34
4 第４文型（SVO_1O_2） 43
5 第２文型（SVC） 48
6 第５文型（SVOC） 51
7 文型の総合演習 57

第3章　句と節

1　句と節とは　64
2　形容詞句　65
3　名詞句　68
4　副詞句　74
5　句の識別　81
6　形容詞節　89
7　名詞節　98
8　副詞節　118
9　節の識別　125

第4章　文構造を正確に掴む

1　基礎知識の応用　132
2　総合演習　137

あとがき　172

Appendix

(A) 重要語句のまとめ　174
(B) 復習用英文再掲　177

本書の使い方

「品詞」「文型」「句と節」など，本書で扱っているものをしっかり意識すると，最初は読む速度が遅くなるでしょう。しかし，この発達段階は避けては通れません。「品詞」「文型」「句と節」を意識せずに単語だけ覚えてたくさん文章を読んでも，「正確な読み方」ができていないわけですから，間違いなく成績は頭打ちになります。**まずは「品詞」「文型」「句と節」を意識して正確な読み方を身につけて，その後でたくさん文章を読んでいくことで徐々に速く読めるようにしていけば，最終的な到達点はずっと高いものになります。**正確に読めるようにする→たくさん読む，と進むのが，英語学習の正しい方向性です。

以上のことを意識して，本書に取り組んでいきましょう。

学習方法の例

英語が苦手な人向け

❶ まずは丁寧に説明を読み進めていく。必要に応じて辞書や総合英語などを参照し，**「理解すること」を最優先にする。例文を音読し（あるいは書き写し），「理解したこと」を実際の英文と結びつけていく。**音読は日本語を見て英語がスラスラ出るようになるまで行う。

↓

❷ 演習問題や総合演習の英文は，時間を気にせず丁寧に読む。解説を読みながら自分で英文に記号（カッコや SVOC など）を振ってみる。

↓

❸ **記号が振られた文章を，形を意識しながら何度も声に出して読む**（5 回程度）。最初に音声を確認し，それを真似るようにして読むとよい（最初はゆっくりと）。

↓

❹ 巻末の**「復習用英文再掲」を用いて**（すなわち，書き込みのないまっさらな文

章を用いて），**頭の中で記号を振りながら何度も読む**（20回以上が目安）。音声も使い，音声を真似るように読んでみたり，音声と同時に読んでみたりする。

❺ 次の章に進み，同様に学習していく。

❻ 学習が完了した後も，折に触れて音読したり音声を聞いたりする。気に入った文章があれば暗唱できるくらい読み込む。

英語がある程度得意な人向け

❶ まずは丁寧に説明を読み進めていく。既に知っている（と思っている）内容であっても必ず目を通し，**知識の抜け漏れを徹底的に潰す**。例文は「理解の確認用」として必ず目を通す。

❷ 演習問題や総合演習の英文は，問題を解いて解説をじっくりと読んだ後，巻末の**「復習用英文再掲」を用いて**（すなわち，書き込みのないまっさらな文章を用いて）**解説に書かれたような読み方ができるかを試してみる**。できなかった部分は解説に戻って頭の動かし方および知識を確認する。

❸ **できなかった部分を特に意識しながら，何度も音読する**（20回以上が目安）。音声も使い，音声を真似るように読んでみたり，音声と同時に読んでみたり，文章からたまに目を上げて（＝文章を見ないで）音読してみたりする。

❹ 学習が完了した後も，折に触れて音読したり音声を聞いたりする。気に入った文章があれば暗唱できるくらい読み込む。

音読のススメ

復習に際しては，**音読**することを強く薦めます。**英文の型をしっかり意識しながら何度も音読することで，英文の典型的な型やその型を読み取るための頭の使い方を**（そしてもちろん単語や表現なども）**身体に染みつけることができます**。英文の型が身体に染みつき，正しい読み取りが自動的にできるようになれば，内容理解や内容の保持に多くの認知容量を割けることになりますから，抽象的な英文も読み解けるようになりますし，もちろん読む速度も圧倒的に速くなります。**学習の初期段階においては，単語や文法の習得とともに，この「解釈の自動化」が決定的に重要になるのです**。

音読をする際には，必ず「形」や「理屈」を意識してください。何も考えずに声に出していても何の効果もありません。「こういう形だから，こういう意味になる」という「形と意味の結びつけ」を何度も頭の中で繰り返すイメージです。そうすると，「英語の型」が身体に自然と染みついていきます。**第１章は各品詞の役割と修飾関係，第２章は動詞の文型と各単語の品詞，第３章はカタマリ（句・節）を特に意識してください**。

本書にはみなさんの学習の助けとなるように，音声をつけています。以下の要領に従って音声を入手し，活用してください。

音声ダウンロード

音声は研究社のホームページ（https://www.kenkyusha.co.jp）から，以下の手順で無料ダウンロードできます。

1. 研究社ホームページのトップページから，「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスします。
2. 表示された書籍の一覧から，『大学入試　基礎からの英文解釈クラシック』の「ダウンロード」をクリックしてください。ファイルのダウンロードが始まります。
3. ダウンロード完了後，解凍してご利用ください。

第1章

品詞

1 品詞・文型はなぜ重要なのか
2 品詞とは
3 名詞とその役割
4 動詞とその役割
5 形容詞とその役割
6 副詞とその役割
7 〈前置詞＋名詞〉とその役割

1 品詞・文型はなぜ重要なのか

次の英文を訳してみてください。

能力　…のように思われる　普遍的な
The capacity to find things beautiful seems almost universal (...)

（津田塾大）

to find things beautiful が直前の the capacity「能力」を修飾していますが，この find things beautiful の意味は何でしょうか。「美しいものを見つける」だと考えた人は，品詞や文型が全くわかっていないと言ってよいでしょう。

find things beautiful　✕ 美しいものを見つける

beautiful は「美しい」という意味の形容詞です。**形容詞は①「前後から名詞を修飾する」あるいは②「補語（C）になる」のどちらかの役割を持ちます**。直前に things「もの，こと」がありますから，①の用法で後ろから things を修飾すると考えると「美しいもの」というカタマリができ，上記の（間違った）訳になります。しかし，**形容詞は２語以上のカタマリであれば後ろから名詞を修飾しますが，１語であれば前から名詞を修飾する**のが原則です。すなわち，「美しいもの」という意味にしたいのであれば beautiful things という語順になるはずです。

find **beautiful things**　○ 美しいものを見つける

しかしここでは things beautiful の語順なので，そのような意味にすることはできません。すると，形容詞の役割が①「前後から名詞を修飾する」ではないのですから，自動的に②「補語（C）になる」となります。things は名詞で，名詞は文中で主語（S），目的語（O），補語（C）になりますが，今回は目的語（O）になります（S がこんなところに出るはずがないし，C が２つ連続するのもおかしいからです）。

よって，この表現は find (V) things (O) beautiful (C) の形になるとわかります。

find things beautiful
V　O　C

動詞は文型によって意味が決まります。find は SVO という第３文型だと「･･･を見つける」の意味になるので，先ほどの find (V) [beautiful things] (O) は「美しいものを見つける」という意味になりました。**SVOC という第５文型だと，find は「O が C だと感じる，わかる，気づく，思う」という意味**になります。よって，find things beautiful は「ものごとが美しいとわかる」という意味になります。

find things beautiful　✕ 美しいものを見つける
V　O　C　○ ものごとが美しいとわかる

The capacity (to find things beautiful) seems 〈almost〉 universal (...)
S　(V)　(O)　(C)　V　C

和訳｜ものごとが美しいとわかる能力（＝美を認識できる力）は，ほとんど普遍的なものであるように思われる

以上のように，**英語は語順が変わると意味が大きく変わってしまう言語**なのです。日本語は語順に対して大変寛容な言語なので，日本語を母語とする私たちが英語を学ぶ際には，語順に注意しなくてはならないのです。そして，この語順と動詞の型を典型的な形に落とし込んだものが「文型」であり，その基礎となるのが「品詞」なのです。

「品詞」「文型」を意識することは，最初は面倒に感じられると思います。しかし，上記で見てきたように，正確な読解には絶対に欠かせないものなのです。早いうちに身につけてしまいましょう。

2 品詞とは

品詞とは，単語を形式や働きによって分類したもので，細かく分けると次の10品詞があります。

品詞	主な役割	例
名詞	「もの」「こと」や人・場所の名前を表す	book, kindness, Aladdin, London
代名詞	名詞の代わりとして用いられる	it, they, you, this, what
動詞	動作や状態を表す	run, study, keep, have
形容詞	名詞の性質や状態を説明する	kind, beautiful, high
副詞	名詞以外（動詞，形容詞，副詞，文全体）を修飾する	kindly, often, fast
前置詞	名詞とセットで形容詞や副詞の働きをする	at, on, according to
接続詞	語・句・節を連結する	because, that, and
冠詞	名詞の特定／不特定を表す	a, an, the
助動詞	動詞に意味を付け加える	can, must, should
間投詞	話し手の感情を表す	oh, damn, oh my god

正しく読むためには，品詞の知識が必要不可欠です。ただし，前置詞は〈前置詞＋名詞〉という形でセットになり形容詞や副詞の役割を果たしますし，間投詞などは読解に直接必要なものではありません※。そうした観点から整理すると，英文を読むために必要となるのは，**名詞，動詞，形容詞，副詞の「基本４品詞」が中心**になります（少し安心しましたね）。以下では基本４品詞に関して説明していますので，これらをしっかりと学習していきましょう。

※　その他，名詞と代名詞は似たように扱えるのでセット / 接続詞は〈接続詞＋SV〉で名詞や形容詞や副詞の役割（⇒第３章８節）/ 冠詞は名詞とセット / 助動詞は動詞とセットと考えます。

3 名詞とその役割

book「本」や kindness「優しさ」などの**「もの」「こと」**，または Aladdin「アラジン」，London「ロンドン」といった**人や場所などの「名前」を表す品詞を名詞**と呼びます。

名詞の例

book 本　kindness 優しさ　son 息子　widow 未亡人　story 話
Aladdin アラジン（人名）　London ロンドン　China 中国

名詞は文の中で主語（S），他動詞や前置詞の目的語（O），補語（C）のいずれかになります。

文中での名詞の働き
① 主語（S）
② 他動詞の目的語（O）
③ 前置詞の目的語（O）
④ 補語（C）

表の①〜④の例を次の英文で見てみましょう。

Momotaro was **a brave young man** who fought **demons** with **his companions**.
S（①）　V　C（④）（勇敢な 若い）　V　他動詞のO（②）（…と戦う 鬼）　前置詞のO（③）（お供）

和訳｜**桃太郎**は，**お供**とともに**鬼**と戦った**勇敢な若者**だった。

▶Momotaro「桃太郎（人名）」という名詞は文の**主語**（S ← subject「主語」の頭文字）です。主語とは**文の主題となるもの**で，日本語だと主に「…は」「…が」にあたります。

▶a brave young man「勇敢な若者」は**補語**（C ← complement「補語」の頭文字）で

す（a man という名詞に brave「勇敢な」と young「若い」という形容詞がついています）。補語は**主語や目的語が「何なのか」「どのような状態にあるのか」などを表す**要素です。上記の例では，桃太郎が「勇敢な若者だった」という内容を表しています。補語は原則として SVC の時には S＝C の関係が成立しますので，ここでも Momotaro = a brave young man という関係が成立しています。（なお，この辺りは第２章「文型」で詳しく扱います。S/V/O/C に慣れていない人はその説明を待ってくださいね。）

- ▶demons「鬼」は**他動詞の目的語**（O ← object「目的語」の頭文字）です。目的語には「他動詞の目的語」と「前置詞の目的語」の２種類があります。**「他動詞の目的語」は動詞で表される行為や動作の対象となる要素を表します**。ここでは他動詞 fought（← fight「…と戦う」の過去形）の目的語として，「戦う」という**動作の対象**として用いられています。
- ▶companions「お供」は前置詞 with の目的語です。**「前置詞の目的語」は，単純に〈前置詞＋名詞〉のセットで用いられる名詞のこと**だと覚えておいてください（〈前置詞＋名詞〉のセットの役割に関しては本章６節で扱います）。

非常に大事なことなのでもう一度繰り返しますが，**名詞は文の中で主語（S），他動詞や前置詞の目的語（O），補語（C）のいずれかになります。そして，名詞は文中で必ずこのうちのどれかの役割を果たします**。S でも O でも C でもない，**いわば「名詞が余っている」ということはありません**。また，**１つの名詞が文中で主語（S）でもあり，かつ前置詞の目的語（O）でもある，というように，２つの役割を兼ねることもありません**。これらの考え方が正確な英文解釈の基本になります。

品詞や S/V/O/C に慣れていない人も心配しないでください。この本を読み進めていくうちに，少しずつ慣れていくはずです。頑張っていきましょう。

4 動詞とその役割

動詞とは，run, study, keep, have など，**人や物事の動作や状態**を表す品詞です。

動詞の例

run 走る　study 勉強する　eat 食べる　move 動く　→ 動作を表す
know 知っている　have 持っている　exist 存在する　→ 状態を表す

動詞は文中で**述語動詞**（V ← verb「動詞」の頭文字）の役割を果たします。**「動詞」は品詞の名前**（すなわち，「名詞」「形容詞」「副詞」と同じカテゴリ）で，**「述語動詞」は文の中での働きの名前**（すなわち，「主語（S）」「目的語（O）」「補語（C）」と同じカテゴリ）を表します。ただし，「述語動詞」が単に「動詞」と呼ばれることも多く，本書においても，述語動詞を「動詞」と記すことにします。

He **read** the story of Aladdin.
S　V　　O

和訳｜彼はアラジンのお話**を読んだ**。

▶read「…を読む」という動詞（＝品詞名）が，文中で V（＝働き）になっている。

文中での役割	その役割を果たすことのできる品詞
主語（S）	名詞
（述語）動詞（V）	動詞
目的語（O）	名詞
補語（C）	形容詞，名詞

動詞の役割は「文型」と密接に関係するので，第２章で詳しく扱います。ここでは次に進んでしまいましょう。

5 形容詞とその役割

形容詞は名詞を修飾したり，名詞に説明を加えることで，**名詞の状態や性質**を表す品詞です。

形容詞の例

kind 優しい　beautiful 美しい　high 高い　famous 有名な

形容詞は文中で①**「前後から名詞を修飾する」**②**「補語（C）になる」**のうち，必ずどちらかの役割を果たします。

(a) a **famous** man　有名な男

▶形容詞 famous が名詞 man を前から修飾（①）

(b) a man **famous** for his artistic talent　芸術的才能で有名な男

▶形容詞 famous が名詞 man を後ろから修飾（①）

famous for ...「…で有名な」のように，〈前置詞＋名詞〉などを伴って２語以上になっている場合，後ろから名詞を修飾できます（⇒詳しくは第３章２節・６節で扱います）。

(c) The man is **famous**.　その男は有名だ。
S　V　C

▶形容詞 famous が補語（C）（②）

(d) The painting made the man **famous**.　その絵画がその男を有名にした。
S　V　O　C

▶形容詞 famous が補語（C）（②）
▶make OC で「O を C にする」

なお，(d) の famous が the man を修飾していると考えて「有名なその男を作った」（？）と解釈することはできません。p. 2 でも見たように，１語の形容詞は前から名詞を修飾する形が基本だからです。

○ the famous man　　× the man famous

形容詞は①か②の「必ず」どちらかの役割を果たします。これが複雑な文を解釈する上で大きな手掛かりになることがよくあります。例えば，次の文中の下線部の形容詞 clear の役割は何でしょうか。

The stories students told Rebecca made the reality of being hungry while trying to learn painfully clear.　（法政大）

※ The stories students told Rebecca「学生たちがレベッカに語った話」とは，次の食事もままならないという学生の話のこと。

〈注〉reality 名 現実 | while -ing …している間に | painfully 副（clear を修飾している）痛ましいほど

副詞 painfully は clear を修飾していますが，painfully clear「痛ましいほど明らかな」の直前にも直後にも名詞はありません。すると，形容詞 clear は**①「前後から名詞を修飾する」の用法になれないので，自動的に②「補語（C）になる」の用法だとわかります。**ここでは，前に出てくる made が make OC「O を C にする」という形をとれることを考えれば，made（V）the reality（of ...）（O）painfully clear（C）「（…という）現実を，痛ましいほど明らかにした」という意味だとわかります。

↓関係代名詞の省略（後ほど扱います）

The stories (students told Rebecca)
S

while -ing「…している間に」

made the reality (of being hungry 〈while trying to learn〉) 〈painfully〉 clear.
V O C

和訳｜学生たちがレベッカに語った話は，学ぼうとしている間も飢えているという現実を，痛ましいほど明らかにした。

重要な部分はしっかり演習して定着させましょう。次ページの問題を解いてみてください。

演習問題

次の文中で「形容詞」を全て指摘し，それぞれについて①「前後から名詞を修飾する」②「補語 (C) になる」のどちらの役割をしているかを答えなさい。

1 What happened? You look sad.

2 The girl made a sad face.

3 I cooked grilled chicken yesterday. It was so tasty!

4 The tradition particular to the area is dying.

5 The paper has many interesting points.

6 He kept silent for a long time.

7 Keep the window open. It's so hot here.

8 This is a song familiar to many children.

9 The melody makes the song familiar to us.

解　答

01

1 What (S) happened (V)? You (S) look (V) **sad** (C).
名(疑問代名詞)　動　(代)名　動　形

和訳｜何が起こったの？　悲しそうだね。

▶sad は②補語 (C) になっています。look は look ＋ C で「C に見える」の意味になるので，「あなたは悲しいように見える」(直訳) から「悲しそうだね」と訳せます。

2 The girl (S) made (V) [a **sad** face] (O).
名　動　形　名

和訳｜その小さな女の子は悲しい顔をした。

▶sad は①直後の名詞 face を修飾しています。

3 I (S) cooked (V) [**grilled** chicken] (O) 〈yesterday〉. It (S) was (V) so **tasty** (C)!
(代)名　動　形　名　副　(代)名　動　副　形

和訳｜昨日，グリルで焼いたチキンを作りました。とっても美味しかったです！

▶grilled は①直後の名詞 chicken を修飾，tasty は②補語 (C) になっています。so は副詞で tasty を修飾しています。

4 The tradition (**particular** to the area) (S) is dying (V).
名　形　前　名　動(現在進行形)

和訳｜その地域特有の伝統は失われつつある。

▶particular to the area「その地域特有の」でカタマリとなって，①直前の名詞 tradition を修飾しています。２語以上の形容詞は後置修飾（＝後ろから修飾）になることに注意してください（詳しくは⇒第３章２節・６節）。

5 The paper (S) has (V) [**many interesting** points] (O).
名 動 形 形 名

和訳｜その論文には多くの興味深い論点がある。

▶many も interesting も，ともに①名詞 points を修飾しています（正確には，interesting が points を修飾し，interesting points という名詞のカタマリを many が修飾しています）。

6 He (S) kept (V) **silent** (C) 〈for a **long** time〉.
(代)名 動 形 前 形 名

和訳｜彼は長い間黙ったままでいた。

▶silent は②補語（C），long は①直後の名詞 time を修飾しています。keep ＋ C で「C のままでいる」という意味になるので，keep silent で「黙ったままでいる」という意味です。

7 Keep (V) the window (O) **open** (C). It's (SV) so **hot** (C) 〈here〉.
動 名 形 (代)名＋動(It is) 副 形 副

和訳｜窓は開けたままにしておきなさい。ここはとっても暑いんだから。

▶open は keep OC「O を（意図的に）C のままにする」の②補語（C）として，hot は be 動詞の②補語（C）として，それぞれ働いています。

8 This (S) is (V) [a song (**familiar** to **many** children)] (C).
(代)名 動 名 形 前 形 名

和訳｜これは多くの子供に馴染みがある曲です。

▶familiar が形容詞で，familiar to many children「多くの子供に馴染みがある」で 2 語以上の形容詞となり，①後ろから直前の名詞 song を修飾しています。many は①直後の名詞 children を修飾しています。

9 The melody (S) makes (V) the song (O) **familiar** to us (C).
名 動 名 形 前 名

直訳｜そのメロディーがその歌を私たちに馴染みがあるものにしている。
意訳｜そのメロディーのおかげで，その歌は私たちに馴染みがある。

►familiar が形容詞で，familiar to us「私たちに馴染みがある」というカタマリが make OC「O を C にする」の②補語（C）として働いています。

Q&A

Q　文法をあまり意識してこなかったのですが，しっかりやったほうがよいですか？

A　はい，もちろんです。本書で繰り返し示しているように，**正確な解釈には文法的知識が不可欠です。「文法が弱い」という自覚がある人は，まずそこを鍛えましょう。**文法には大きく分けると「①読解のための文法」「②作文のための文法」「③文法問題のための文法」があります。優先的に身につけるべきは①であり，これは本書でその大部分を扱っています。まずは本書を繰り返し復習し，特に弱い部分があれば学校や塾の教材，あるいは手持ちの文法問題集で関連する部分を見直してみましょう。全体的に強化したいのであれば，類書（英文解釈の基礎的な参考書・問題集）をやってみるのもよいと思います。